別紙様式

令和6年度　学校評価報告書

小樽市立長橋小学校
校長　及川　年彦

【自己評価】
数値目標に対する達成度を、以下の基準で評価
A：100％以上
B：80％以上100％未満
C：80％未満

【学校関係者評価】
学校の自己評価に対し、以下の基準で評価
◎：適切である
○：おおむね適切である
△：適切でない

1　本年度の重点目標

いきいきと学び　未来を創る　長橋の子
・誰一人取り残すことのない学習をすすめる学校づくり（日常的なICTの活用）
・ともに認め合い、温かいつながりにあふれた学校づくり（支持的風土のある学級づくり）
・地域とのつながり、学びと育ちをつなぐ学校づくり（小中一貫教育を核として）

2　自己評価結果・学校関係者評価の概要と今後の改善方策

小樽市教育推進計画の目標		施策項目	数値目標	自己評価		学校関係者評価
				評価	取組状況・達成状況	
1	未来を創る力の育成	確かな学力の育成	全国・学力学習状況調査（6年）、標準学力調査（3・5年）において、国語は全道平均以上、算数は全道平均と同程度にする。	C	全国学力・学習状況調査では、国語・算数の平均正答率が全道より下回った。標準学力調査は3年生が全国の正答率より国語、算数ともに下回り、5年生が全国の正答率より国語が下回り、算数が同程度となった。引き続き、算数科の低学年のT・T、中学年の習熟度別少人数指導、高学年の専科指導と指導方法の工夫改善を行ったり、校内研修で小樽の授業づくり5つのSTEPに基づく授業改善を組織的に行ったりした。	◎
		特別支援教育の充実	対象となる全ての児童の「個別の指導計画」の作成と「個別の教育支援計画（後志版）」を整備し、活用する。	A	年度当初に作成・整理を行い、特別支援コーディネーター中心に共有する場を設け、年間を通して計画的に活用を図った。	◎
		国際理解教育の充実	外国語活動や外国語の授業で年間2回以上ALTを効果的に活用する。	A	12月10日（火）に中学年（3・4年）外国語活動で、1月31日（金）に高学年（5・6年）外国で、専科教諭とのT・T授業を行い、児童の興味・関心を高めた。	○
		理数教育の充実	児童アンケート「算数の学習が好きですか」の設問で、肯定的回答の割合70％以上	A	低学年のT・T、中学年の習熟度別少人数指導、高学年の専科指導と指導方法の工夫改善を行うことにより、前期は全校77.8％の肯定的回答だった。後期は低学年78.3％、中学年82.8％、高学年 74.6％とどの学年でも目標値を達成した。	◎
		情報教育の充実	児童アンケート「PC・タブレットをどの程度使用」の設問でほぼ毎日使用と回答した児童の割合を80％以上	C	前期は全校53.2％の肯定的回答だった。後期は低学年50.0％、中学年44.8％、高学年79.1％となった。2学期に全学年毎日端末持ち帰りや授業の振り返りでの端末活用など使用場面は着実に増えてきているが、目標値には達しなかった。	◎
		キャリア教育の充実	児童アンケート「将来の夢や目標を持っている、どちらかといえばもっている」の設問で肯定的回答の割合80％以上	A	キャリアパスポートの取り組みや外部講師によるキャリア教育の充実を図ることにより、前期は全校88.2％の肯定的回答だった。後期は低学年86.7％、中学年96.5％、高学年94.0％とどの学年でも目標値を達成した。	◎
改善方策		○一単位時間の授業で確実に終末問題に取り組ませ、基礎学力の定着を図るとともに、全国学力・学習状況調査の過去問題等に繰り返し取り組ませることで、必要な資質・能力の定着を図る。 ○端末の利活用については依然として学年差・学級差が見られることから、研修Gを中心に統一した利活用場面（振り返り）を再確認するとともに、チェックポイントを設ける。				
学校関係者評価委員による意見		◇学力の向上が喫緊の課題となっている。学習内容の確実な定着をどのように図るか苦労もあると思うが、学習への動機付けが重要だと思う。ぜひ、子どもたちが学ぶ目的をもてるよう指導願います。 ◇国際理解教育の数値目標が、取り組みだけではなく、その取り組みによって子どもがどう変容したかが重要である。				
2	豊かな心の育成	道徳教育の充実	特別の教科道徳（道徳科）の授業を全学級が外部公開（保護者参観日、指導訪問等）する。	A	全学級において、参観日や指導訪問時に道徳の授業を公開し、授業力向上を図った。	◎
		ふるさと教育の充実	潮音頭の練習や屋形船体験などのふるさと教育を全学年で実施する。	A	6月12日（水）に藤間流の方を講師としてお招きし、1～3年生対象に潮音頭の練習を行った。また、4年生は屋形船体験、5年生は知産志食、6年生はガラス制作体験を行い、ふるさとへの理解や愛着を高めた。	◎
		読書活動の推進	保護者アンケート「お子さんは、平日家でどのくらい本を読んでいますか。」の「しない」の割合を30％以下にする。	B	2学期に朝読書の取組を強化したり、図書館司書と連携し各教室前の廊下におすすめ図書を並べたりしたことにより前期50.9％から後期31.2％となり、読書に親しむ児童が着実に増えたが、わずかに目標には達しなかった。	○
		体験活動の推進	地域の環境整備などの社会貢献活動を年1回以上行う。	A	社会福祉協議会と連携し、児童会活動として赤い羽根募金やリングプル集めを行った。保護者の協力もあり、募金は25，030円も集まった。	◎
		コミュニケーション能力の育成	「ほっと」を全学級で実施し、児童の実態把握をもとにコミュニケーション能力向上を図る。	A	6月と11月に全学年で実施した。結果と課題をまとめ、職員で共有した。また、学級の特徴を捉え、コミュニケーション能力向上に向けた授業改善を行った。	◎
		いじめの防止や不登校児童生徒の支援の充実	「人権教室」「情報モラル教室」「手話」等の外部講師による人権や福祉に関する授業を全学年で実施する。	C	7月18日に(株)アフォーダンスから講師を招き、2・3・5・6年生を対象に情報モラルを行った。また、外部講師を招き、12月3日（火）に高齢者体験12月12日（木）には2年生対象に手話教室を行ったが、全学年での実施とならなかった。	◎
改善方策		○2学期から始めた朝読書の取組や図書館司書との連携による図書館イベントの開催により、10月から12月の図書貸出冊数は前年比＋216冊の計808冊となった。次年度も引き続き職員や子どものアイデアを生かした読書環境の整備を図っていく。 ○次年度は外部講師を活用した人権や福祉に関する授業を全学年実施できるよう計画的に行っていく。				
学校関係者評価委員による意見		◇子どもの内面の資質を育てる道徳の時間を今後もぜひ充実させてほしい。 ◇本の貸出冊数の増加だけでなく、子どもに本の面白さを啓発・指導している取組を、外部講師の活用などによりさらに充実させてほしい。				

小樽市教育推進計画の目標		施策項目	数値目標	自己評価		学校関係者評価
				評価	取組状況・達成状況	
3	健やかな体の育成	体力・運動能力の向上	全国体力・運動能力・運動習慣等調査の体力・運動能力において、「走力」「全身持久力」を全道平均以上にする。	C	「50M走」は全道平均男子に対し本校男子下回り、全道平均女子に対し本校女子は同程度、「20mシャトルラン」は全道平均男子に対し、本校男子大きく下回り、全道平均女子に対し本校女子は同程度となり、全道平均以上とはならなかった。その後、体力・運動能力向上に向けて学期ごとに全学年でシャトルランに取り組みベスト3を表彰したり、なわとび検定に取り組んだりした。	◎
		食育の推進	生活習慣スケジュール表を活用した取組を全学年2回以上実施する。	A	10月と2月にそれぞれ全学年で端末(フォーム)を活用し行い、学年・学級ごとの傾向を把握して指導に生かしたり、学校だよりを通じて保護者に成果や課題を共有した。	○
		健康教育の充実	保護者アンケート「お子さんは、早寝・早起き・朝ご飯など、基本的な生活習慣が身についてきていますか」の肯定的回答を80%以上	A	学校HPで生活習慣改善の啓発を行ったり、生活リズムチェックシートを年2回行って保護者と結果を共有したりすることにより、前期83.5%　後期82.4%とともに肯定的回答が目標値を上回った。	◎
改善方策		○運動量確保に向けた体育科の授業改善を図るとともに、児童自らが運動に親しむことができるようボルタリングの活用や全国体力・運動能力・運動習慣等調査結果から見られる課題克服に向けた日常的に運動できる場の工夫を行う。 ○子ども自らが自身の課題に対して目標を設定する運動に次年度も取り組む。				
学校関係者評価委員による意見		◇登下校にスクールバスや自家用車を利用したり、外で遊ぶ子どもが減少したりしている中で、学校でできることによく取り組んでいると思う。今後、自分で目標を設定して、それを意識して運動に取り組む方針はとてもよいと思う。 ◇スキーや水泳に係るバス代や施設使用料が高騰している中、市の補助を要望するなど保護者負担を減らしてほしい。 ◇生活スケジュール表を活用した結果、子どもがどう変容したかが重要である。				
4	家庭・地域との連携・協働の推進	家庭教育支援の充実	児童アンケートにおいて、平日家庭学習を学年×10分＋10分したと回答する割合80%以上	C	前期23.0%、後期は低学年58.3%、中学年41.4%、高学年32.8%である。全学年で端末の毎日持ち帰りをすることで、学習する時間は増えてはきているが、依然として目標値との差は大きい。	◎
		学校と地域の連携・協働の推進	CSとして、地域と連携した児童や保護者向けの事業を1回以上実施する。	A	12月2日(月)の5時間目にCS防災教室の実施した。全校児童・教職員と地域・保護者13名が参加し、防災講話を聞いたり、ダンボールベッド作りを体験したりした。地域の方からは「子どもと一緒に学んだり、活動できたりしてよかった」と評価していただいた。	◎
改善方策		○高学年になるにつれて家庭学習時間の達成率が下がる傾向は変わらない。2学期末や3学期に全校で実施した家庭学習強化週間(音読)の取組を次年度も計画的に設け、必ず家庭学習に取り組む習慣づくりの徹底を図る。				
学校関係者評価委員による意見		◇家庭学習を通じて、卒業時に「音読は、どの子どももすらすら読めるようになる」「算数なら全員九九が言えるようになる」など具体的な目的をもった取組を期待します。				
5	学びと育ちをつなぐ学校づくりの実現	学校段階間の連携・接続の推進	長橋中学校区全教職員参加の一斉公開授業(公開研究会)を本校で実施する。	A	9月18日(水)に本校で実施し、端末を使った授業を全学級で公開し、端末を活用した授業が好評だった。また、小中一貫全体会も開催し、部会ごとの具体策も検討した。	◎
		教育環境の整備・充実	1人1台端末を有効活用した授業実践交流・研修を年3回以上実施する。	A	1学期に端末活用の校内研修、2学期に低学年ブロックの事前研修・校内研修、高学年ブロックの事前研修・公開研究、及び外部講師を招いた端末利用の研修を行い、活用能力の向上に努めた。	◎
		教職員の資質・能力の向上	教員研修等延べ50回以上参加する。	A	長期休業中に多くの教員が研修を受講し、オンラインの研修を含めると延べ200回以上参加した。それぞれ、自分のニーズに応じた研修を選択することができた。	◎
		学校運営の改善	「一斉定時退勤日」の月2回、個人定時退勤日の設定を行う。	A	「一斉定時退勤日」を月に2回以上設定し、実施することが出来た。教職員個々の業務の進捗状況に合わせた個人定時退勤も実施を進め、月45時間以上の勤務する職員が減少するなど、働き方改革推進につながった。	◎
		学校安全教育の充実	緊急時を想定した引き渡し訓練を年1回実施する。	A	6月7日(金)に引き渡し訓練を実施し、円滑に行うことができた。	◎
改善方策		○定時退勤日を設定し、月45時間以上の超過勤務の職員は減少しているが0とはなっていない。教育DXによるより一層の業務の効率化(学級通信のデータ化、会議時のチャット利用等)を図っていく。				
学校関係者評価委員による意見		◇先生方が健康で明るい存在であり続けることが最も大事です。不要な超過勤務を極力減らしていく効果的な取組を期待します。				
社会教育に関連する目標(目標6～8)			水泳学習、スキー学習、長期休業中の学習日に学校支援ボランティアを活用する。	A	水泳学習には延べ6名・スキー学習には延べ8名・長期休業中の学習会では延べ4名のボランティアを活用し、指導の充実を図った。	◎
改善方策		○次年度も、水泳学習やスキー学習、長期休業中の学習会サポートなどに積極的にボランティアを活用し、子ども一人一人に対応した指導の充実を図っていく。一方、ボランティアが不足していたり、ボランティアに支払う講師料等が高騰したりしていることから、関係機関や関係団体との連携も密にしていく。				
学校関係者評価委員による意見		◇教育活動の充実につながるよう、ボランティアの活用は今後も継続してほしいが、講師料等は市の補助を要望するなど保護者負担を減らしてほしい。				